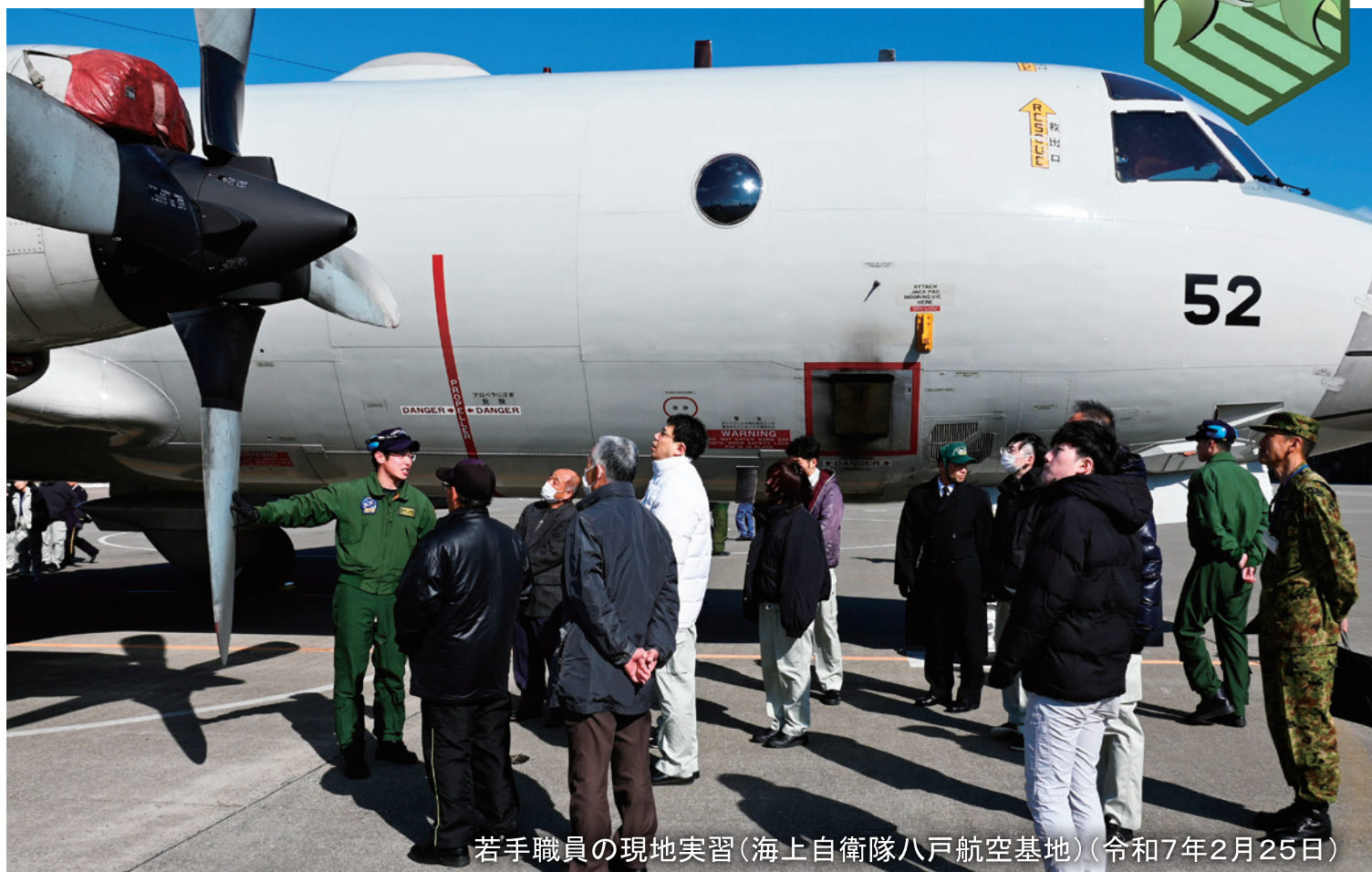




# 東北のかなめ

vol.69 (2025.7)

東北6県において、地域と防衛との共生を促進するため、  
地域と防衛との架け橋になっている東北防衛局の活動をメインに、  
関連する情報について、年4回、発信します。



若手職員の現地実習(海上自衛隊八戸航空基地)(令和7年2月25日)

## 【CONTENTS】

### 特集 第46回防衛セミナー in 大和町

#### 東北防衛局の活動

むつ市防災食育センター落成式  
油船起工式  
第28回米軍の早期警戒レーダー配備に係る連絡会  
令和6年度東北防衛局長感謝状の贈呈  
日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2025  
東北防衛局の建設工事に関する説明会  
新規採用職員研修  
若手職員の現地実習  
新幹部の紹介(4月1日付)

#### 地域と防衛との共生：関係する皆さまからのご寄稿

青森県むつ市 ～むつ市×自衛隊  
海上自衛隊大湊地区隊 ～大湊地区隊の新編と地域との共生  
米陸軍車力通信所  
～米陸軍と日本のチームで重症患者搬送訓練実施  
株式会社SHOEI 岩手工場  
～世界が認めたプレミアムヘルメット  
上北建設株式会社  
～海自八戸(4) 宿舎改修建築その他工事

令和7年3月13日、宮城県大和町のまほろばホールにおいて、防衛セミナーを開催しました。東北防衛局は、防衛政策や自衛隊の活動等について、より多くの方々のご理解を深めていただくため、東北各地で防衛セミナーを開催しており、今回で46回目を迎えました。

この日、大勢の方を会場に迎え、主催者である池松英浩東北防衛局長は、「防衛政策や自衛隊の活動等に対するご理解を深めていただくとともに、地域と防衛との関係や共生について考える機会にもなれば」と挨拶しました。

防衛セミナーの第1部では、わが国の安全保障政策について認識を深めてもらう観点から、「新たな国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画」をテーマに、防衛省整備計画局防衛計画課の中野憲幸課長が、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境の中における、防衛力の抜本的強化の必要性などについて、解説しました。

第2部では、地域と防衛との共生について認識を深めてもらう観点から、「大和駐屯地と地域との関わり」をテーマに、開催地に所在する大和駐屯地司令の宇野仁太郎2等陸佐が、大和駐屯地と王城寺原演習場の沿革や地域とのつながりについて、講演しました。

来場された方々からは、「3文書の概要、防衛省の防衛力整備の取り組みなど理解できた。」、「大和駐屯地が地域との関わりを大事にしていることを感じた。今後も近隣住民の理解を得るような取り組みを期待します。」などの感想が寄せられました。



防衛省整備計画局防衛計画課の中野憲幸課長



陸上自衛隊第6偵察隊長兼  
大和駐屯地司令の宇野仁太郎2等陸佐



今回の防衛セミナーは、より多くの方々に視聴していただくため、防衛省・自衛隊公式動画チャンネルで公開しています。ぜひ、ご覧ください。





## むつ市防災食育センター落成式

3月17日、青森県むつ市において整備が進められていた「むつ市防災食育センター」が完成し、落成式が行われました。

本施設は、1日約3500食の食事を調理でき、市内14の小中学校等に給食を提供するほか、調理工程の見学もできます。また、災害時には、1日約9000食のおにぎりや汁物を、3日間提供できるほか、駐車場を防災広場として活用することもできます。

むつ市は、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条に基づく民生安定事業として、事業費約30億円のうち、補助金約23億円を活用し、本施設を整備しました。

山本知也むつ市長は、式典で、東北防衛局の職員を始め関係者への謝意を表した後、「本施設は、平時には学校給食の調理・配送のほか、市民の防災教育、食育に関する学習の場として活用されるとともに、食料備蓄機能を備え、災害時には避難場所等への応急給食の調理・配送及び災害支援活動の拠点となる『防災』と『食育』のハイブリッド機能を有する施設となりました。本施設が、予測できない災害への備えと生きる力を育み、快適で持続可能な暮らしを実現する場所となることを心から願っています。」と挨拶しました。



式典で挨拶をする山本むつ市長



施設の完成を祝いテープカット



食育の場として調理工程を見学できる。

## 油船起工式

4月14日、株式会社みらい造船(宮城県気仙沼市)において、海上自衛隊の油船(あぶらぶね)「Y051」の建造工事の安全を祈願する起工式が行われました。東北防衛局郡山防衛事務所は、本船の建造工事の監督・検査を実施します。

本船は、護衛艦等の運用支援を実施する支援船に区分される船舶で、港内に停泊中の艦艇への燃料補給を行います。今後、今年11月に進水し、来年2月の海上自衛隊への引渡が予定されています。

内山田郡山防衛事務所長は、式典で、「業務に支障が生じないよう、互いに連絡をよく取り合いたい。我々も本事業が円滑に進められるよう尽力したい。」と挨拶しました。



みらい造船吉田慶吾代表取締役会長、内山田所長などの関係者が式典に出席。

## 第28回米軍の早期警戒レーダー配備に係る連絡会

3月10日、青森県つがる市において、第28回米軍の早期警戒レーダー配備に係る連絡会を開催しました。

この連絡会は、米陸軍のTPY-2レーダーが、航空自衛隊車力分屯基地（青森県つがる市）に配備された平成18年6月に（注）、関係機関が連携し、日米の良好な関係を形成・維持することを目的に設置されたものであり、青森県、つがる市、地域町内会、在日米軍、空自車力分屯基地などで構成され、東北防衛局が招集・議事運営を行っています。

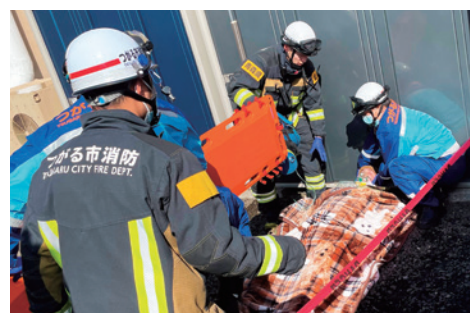
今回の連絡会では、車力通信所内で事故が発生したとの想定で、3月7日に実施された重症患者搬送訓練の成果について、報告しました。当該訓練には、米陸軍車力通信所、つがる市消防本部、つがる警察署、空自車力分屯基地、東北防衛局などが参加し、消火活動と患者搬送を実動で実施しました。連絡会では、今後も継続して当該訓練を実施することが確認されました。

また、車力通信所に隣接する市道豊富（とよとみ）18号線の代替道路の整備状況などについても報告しました。

東北防衛局は、引き続き、関係機関と協力し、日米の良好な関係の形成・維持に努めてまいります。



連絡会の様子



重症患者搬送訓練の様子

【注】 TPY-2レーダーは、米国が弾道ミサイルの探知・追尾を目的に開発した。また、航空自衛隊車力分屯基地に配備されたTPY-2レーダーは、平成19年6月、隣接する米陸軍車力通信所へ移設された。

## 令和6年度東北防衛局長感謝状の贈呈

3月18日、航空自衛隊車力分屯基地において、米陸軍車力通信所指揮官を兼ねる第10ミサイル防衛中隊長の交代式が行われ、ヘンリー・R・エッチバーガー大尉が離任し、新たな中隊長としてジェシー・D・ミルズ大尉が着任しました。

東北防衛局は、離任するエッチバーガー大尉に、地元との良好な関係の形成と維持に尽力した功績をたたえ、榮森企画部次長から東北防衛局長感謝状を贈呈しました。



エッチバーガー大尉（左）と  
榮森企画部次長（右）



## 日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2025

3月1日、青森県東北町において、日米交流ひな祭り in TOHOKU Town 2025を開催しました。

東北防衛局は、在日米軍と地域の相互理解を深めるため、スポーツや文化などを通じて交流する「日米交流事業」を各地で開催しています。東北町でのひな祭りの開催は、今回で10回目を迎え、イベントに参加した米軍三沢基地と周辺地域の小学生と保護者約50名は、日本の伝統行事を通じ、交流を深めました。

会場には、7段のひな飾りや着物が展示され、イベントは、同じテーブルの参加者の名前を覚えて発表する「お名前おぼえてゲーム」で始まりました。

琴の演奏、餅つき体験、着物の試着、万華鏡工作とさまざまな体験で交流を深めた参加者からは、「最高に楽しかった。」、「アメリカ人の友達が出来てとてもうれしいです。」と感想が寄せられました。

在日米軍と地域の相互理解の一助となるよう、今後も様々な形で活動していきます。



琴に触れて、音色を体験



多くの児童が列を作って、餅つきを体験



着物を試着し、記念撮影

## 東北防衛局の建設工事に関する説明会

東北防衛局は、自衛隊が各種任務を適切に遂行して我が国の防衛力を持続的に発揮できるようにするため、既存施設の更新など多くの工事を発注しています。この工事の入札に、企業の皆さまが積極的にご参加いただけるよう、建設工事に関する説明会を各地で実施しています。

5月12日には、青森県建設業協会(青森市)において、東北防衛局の建設工事に関する説明会を実施しました。説明会では、令和7年度に、東北防衛局が青森県内で発注予定の建設工事について説明し、参加した多くの地元企業の皆さまへ、入札への参加を呼びかけました。

発注予定工事や入札・契約制度については、東北防衛局のホームページでも公表しています。



発注予定工事



入札・契約制度



5月12日の説明会の様子

## 新規採用職員研修

東北防衛局は、採用者を新たに迎え、4月15日から4月18日までの間、新規採用者研修を行いました。

研修では、東北防衛局の沿革や業務、陸海空自衛隊の概要、公務員としての心構えや行政文書管理など、様々な分野の座学研修を行いました。また、三沢基地での現地研修を行い、航空自衛隊と米空軍の部隊について、装備品や施設を実際に見て、学習しました。



東北防衛局の業務などの座学研修



米軍三沢基地での装備品の見学



三沢防衛事務所での概況説明

## 若手職員の現地実習

東北防衛局は、若手職員を対象に、防衛省・自衛隊の業務に関する知見を広げるとともに、当局と自衛隊などとの関わりについて認識を深め、業務に必要な能力の向上を図るため、管内の防衛施設やその周辺にある補助事業施設などの概要を現地において学習する現地実習を行いました。

現地実習は、陸自岩手駐屯地・岩手山中演習場(2月5日。岩手県滝沢市)、空自松島基地(2月18日。宮城県東松島市)、海自八戸航空基地・陸自八戸駐屯地(2月25～26日。青森県八戸市)の3地区で行われ、若手職員は、いずれかの地区を選択し、現地実習に参加しました。

また、若手職員は、それぞれの担当業務等をテーマに、現地に赴く前に当局の幹部へのプレゼンテーションを行うとともに、現地では部隊に勤務する事務官等と意見交換を行いました。



スキー競技会の見学  
(陸自岩手山中演習場)



地対艦ミサイル連隊の装備品の見学  
(陸自八戸駐屯地)



交付金を活用し整備中の  
道路改良工事(東松島市)の見学



担当業務等のプレゼンテーション



## 新幹部の紹介(4月1日付)

総務部長 鍋田 克己 (なべた かつみ)

【前職:独立行政法人駐留軍等労働者労務管理機構労務部長】

東北防衛局の勤務は平成11年以来となります。初心を忘れず、また、新たな気持ちでこれまでの経験や知識を生かして職責を果たす所存ですので、皆様よろしくお願いいたします。



調達部長 吉田 秀嗣 (よしだ ひでつぐ)

【前職:南関東防衛局調達部次長】

6年ぶり4度目の東北防衛局勤務となります。これまでの経験や知識を生かし管内における自衛隊及び在日米軍の効率的な施設整備に取り組む所存ですので、よろしくお願いいたします。



会計監査官 佐藤 浩久 (さとう ひろひさ)

【前職:防衛省地方協力局環境政策課情報調整官】

2年ぶりの東北防衛局勤務となります。会計監査業務は初めてとなりますが、国民の皆様の信頼を損なうことのないよう、公正に職務を遂行する所存ですので、よろしくお願いいたします。



## 東北防衛局では 事務官・技官を募集しています

『自衛隊・在日米軍・地域を繋ぐ架け橋として』

詳しくは、  
防衛省HPを  
ご確認ください。



日米交流かかし作り交流プロジェクトinつがる2024



応急危険度判定訓練

『技術の知識や経験を日本の防衛のために』

## 青森県むつ市 ～むつ市×自衛隊

### ◇海上自衛隊×ジオパーク◇

本州最北端、下北地域の下北ジオパークは、3つの海に囲まれ、多様な地質が表れた「まさかり」の形をしており、大地と海に育まれ、守り継がれてきた生態系と人々の営みが見どころです。



大湊の北にそびえる釜臥山(かまふせやま)。山頂に見えるのは空自第42警戒隊のレーダー。



鳥のくちばしのようにのびる芦崎。釜臥山から流れ出た土砂が、海流で運ばれ形成された。

そのジオサイトのひとつに「大湊・芦崎ジオサイト」がありますが、大湊は、釜臥山が背後にあること、くちばしのようにのびた芦崎の「砂嘴(さし)」という地形が防御に向いていることなどの理由で、明治時代から旧海軍(現在は海上自衛隊)の港として使用されてきました。



芦崎を会場に開催された「子どもジオ芦崎探検隊」。探検隊は護衛艦も見学した。

### ◇自衛隊×グルメ◇

「おおみなと海自カレー」は、海上自衛隊大湊基地所属の艦艇等各部隊で提供されているカレーを部隊から直接店舗に伝授された秘伝のレシピをもとに忠実に再現したカレーです。

「大湊Sora空っ!」は、当市に所在する航空自衛隊第42警戒隊で食されている「空上げ(鶏の唐揚げ)」で、下北半島産のこだわりの食材を使用しています。

これらのグルメは、今やむつ市のご当地グルメとして定着しています。



おおみなと海自カレー、大湊Sora空っ!(そらから)は、認定された市内の飲食店で提供されている。



## 海上自衛隊大湊地区隊 ～大湊地区隊の新編と地域との共生

海上自衛隊大湊地方隊は、令和7年3月24日に大湊地区隊として新編され、横須賀地方隊の隷下となりました。今回の改編に関し、その目的及び任務並びに目指すべき地域との共生について、紹介します。

### ◇改編の目的◇

海上自衛隊大湊地方隊は、横須賀、呉、佐世保及び舞鶴地方隊と並び、①沿岸防備、②爆発物処理、③後方支援（護衛艦等に対する燃料、弾薬などの補給及び修理・整備）、④災害派遣、⑤地元自治体との連携等の5つの役割を担任してきましたが、最近の我が国周辺海域における外国艦艇の極めて活発な活動を踏まえ、より高度な警備体制を構築する必要があるとの観点から、大湊地方隊を大湊地区隊として新編し、横須賀地方隊の隷下とすることになりました。

これにより、大湊警備区と横須賀警備区が統合され、かつ、大湊地方隊隷下の艦艇が全て横須賀地方隊隷下となり、北方から関東南方に至る海域における警戒監視任務に、シームレス、かつ、より効率的に対応することができるようになって考えています。

### ◇改編後の大湊地区隊の任務◇

これまで大湊地方隊が担任してきた沿岸防備及び爆発物処理は、横須賀地方隊が担任することになり、大湊地区隊の担う部隊運用における役割は減ずるものの、後方支援及び災害派遣並びに地元自治体との連携等といった大湊地区に根差した任務は、これまでと同様に大湊地区隊が主体的に実施します。

### ◇地域との共生◇

大湊地方隊は、後方支援や災害派遣活動といった役割を、地元自治体などと緊密に連携しながら果たすとともに、イベントなどを通じて地域交流を深めるなど、地域との信頼関係を常に念頭に置いて活動してきました。

このような活動が、地域の歴史や自然、住む方々を愛し、文化や伝統を守りたいと思う隊員の心、ひいては国を愛し、守りたいという心、即ち、隊員の精神的基盤を育むと考え、改編後も変わることなく、地域との共生に努めていきます。



大湊ネブタ祭りへの参加



大湊消防署との共同訓練

## 米陸軍車力通信所 ～米陸軍と日本のチームで重症患者搬送訓練実施

米陸軍は、3月7日、航空自衛隊、青森県ドクターヘリ、つがる市消防本部などの皆様のご協力のもと、車力通信所内で重症患者搬送訓練を実施し、卓越した両国間の即応性が発揮されました。

この訓練では、現実的に起こりうる、軍と民間の垣根を越えた迅速な連携が求められる事態をシミュレートしました。訓練は、米陸軍の人員がつがる市に、車力通信所内での消火活動と緊急医療支援を要請するところから始まりました。また、つがる市消防本部は、すべての要素がシームレスに運用されるよう、現場での調整を行いました。



米陸軍車力通信所所長のミルズ大尉は、「本訓練は、運用上の即応性だけでなく、同盟国である日本や地域コミュニティとの極めて重要なパートナーシップの強化に寄与する。」と述べ、「緊急事態が実際に発生したとき、効果的な連携が生死を分けることがある。」と締めくくりました。

本訓練は、両国共同での訓練、コミュニケーション、そして相互運用性の重要性に焦点を当て、参加者は、患者の引き渡し手順、緊急時におけるコミュニケーション、患者搬送等の諸調整について実動で練成することができました。



米軍の正確さと民間の専門知識を併せることにより、この訓練を通して、命を守り、地域の災害対処能力を強化するという共通のコミットメントについて、再確認することができました。

日米両国の参加者は、訓練により素晴らしい結果を得たと評価し、将来の共同訓練を計画する必要性について、確認しました。



## 株式会社SHOEI 岩手工場 ～世界が認めたプレミアムヘルメット

株式会社SHOEIは、オートバイ用のヘルメットをメインに製造しています。Made in JAPANにこだわり、国内2カ所に生産拠点をもち、その1つが、岩手県一関市にある岩手工場です。

当社は、オートバイ用のヘルメットのほか、自衛隊の航空機用や装甲車用などのヘルメットも製造しており、岩手工場では、SHOEIの高い技術力を活かし、装甲車用と艦船作業用のヘルメットを製造しています。

当社は、デザイン性、機能性、そして高い安全性能を追求したオートバイ用のプレミアムヘルメットをメインに製造しており、世界のプレミアムヘルメット市場の60%以上のシェアを占めています。

当社のヘルメットは、シェル(外殻部分)にFRP(繊維強化プラスチック)を使用しています。ヘルメットの製造は基本的には手作りです。長年培ってきた技術を活かし、軽くて強靱なシェルを製造する成形工程から始まり、塗装工程、組立工程を経て完成品が出来上がります。また、工程ごとに決められた厳しい検査を行い、その検査に合格した製品を出荷しています。

オートバイ用のヘルメットには、日本のJIS、欧州のECE、米国のDOTなど、国や地域ごとが、それぞれの道路事情などを踏まえ、安全規格を定めています。

当社は、各国のユーザーが使いやすいヘルメットを提供できるよう、FRPの繊維の種類や配置などの仕様をできるだけ細かく変えて、それぞれの安全規格に適合するヘルメットを製造しています。

安全規格をクリアするのは当然のことですが、被り心地やファッション性にもこだわっており、世界の二輪ライダーの皆さまにトップブランド・ヘルメットとして認知されています。今後も、デザイン性、機能性、そして高い安全性能を追求した最高品質のヘルメットを提供してまいります。



SHOEI 岩手工場



SHOEI 岩手工場で製造されている  
装甲車用のヘルメット



装甲車用のヘルメットのシェル。  
傷が付いたときに目立たないように、  
塗料を混ぜてFRPを成形している。



ヘルメットは様々な安全規格に  
適合するよう設計されている。

## 上北建設株式会社 ～海自八戸(4)宿舎改修建築その他工事

私ども上北建設株式会社は、大正2年(1913年)5月の創業以来「社業の発展を通じて社会に貢献し続ける企業でありたい」という理念の元、社員一人ひとりが誠意、創意、熱意を持って行動し、お客様にご満足いただける製品とサービスを提供してまいりました。

工事現場から商品開発された次世代体感マット『ピタリング』は、全国の道路工事現場で採用され、交通事故防止に貢献しております。

昨年7月、東北防衛局発注の「海自八戸(4)宿舎改修建築その他工事」にて、八戸の宿舎2棟の外壁及び建具改修を施工し、令和6年度優秀工事顕彰を受けました。

当該改修工事は、宿舎に入居者が生活をする中での工事であったため、各入居者の都合を適宜確認し、それぞれの生活に配慮した工事計画を立案しました。また、工事着手前に工事概要説明会の開催、工事中には管理隊・厚生隊との連絡調整を密に行い、工程や注意事項などの周知文書の配布・掲示を行うなど、入居者の皆様への丁寧な情報共有に努めました。

こうした取り組みが、東北防衛局において評価いただけたものと考えています。

今後も当社は、東北防衛局発注の工事に積極的に参加し、同局ならびに各基地隊の皆様方が安心して任務を遂行できるような、より良い施設づくりに尽力してまいります。



上北建設の社屋(上)とピタリング(下)。通過時の振動と音で、居眠り・脇見運転による工事現場でのもらい事故を防止。



改修工事後の宿舎の外観

## 編集後記

前号での専門紙「朝雲」の紹介に続き、ラジオ番組「日本の防衛Q&A」を紹介します。

「日本の防衛Q&A」は、防衛政策や自衛隊・米軍の活動について、東北防衛局の職員が紹介するコミュニティFMラジオの番組で、東北6県で放送されています。

放送予定や過去の放送のテキストは、東北防衛局のホームページで公開しています。また、7月放送分からは音声データも公開予定です。右の二次元コードから是非ご確認ください。

